

(土石流被害の防止による評価)

(区分) 国補

事業名	復旧治山事業(通常)	事業箇所	都留市	鹿留	地区名	ガンジカ沢	事業主体	山梨県	
(1)事業概要					(3)事業の妥当性評価			妥当	妥当でない
①課題・背景 本箇所は、都留市鹿留古渡地区を流れる一級河川鹿留川支流の荒廃溪流である。近年の集中豪雨の影響で溪岸浸食が拡大したことにより、溪流内に不安定土砂が堆積し、下流への土砂流出の恐れが高まったため、土砂流出対策を早急に実施し、保全対象の保護を図る必要がある。					①公共関与の妥当性(行政が行うべき事業か) ・森林法第41条第1項に規定された「保安施設事業」に該当			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
②整備目標・効果					②事業執行主体の妥当性(県が行うべきか) ・森林法第41条第3項の規定により都道府県知事が整備			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
□主要目標 ○土石流災害の防止 保全対象 人家29戸 市道100m 土砂整備率 (現況)0%<70% ※ 災害実績 無 ※ 重要公共施設 有(避難場所 古渡団地集会所) (※ 評価基準値)					③経済妥当性 費用便益費 便益(B)／費用(C)= 4.81 >1.0 ・便益(B)= 698 百万円 ・費用(C)= 145 百万円			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
□副次目標					④事業実施・規模の妥当性 ・流域内は不安定土砂が堆積しており、下流へ流出する恐れがある。 なお、砂防ダムの計画はない。			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
□副次効果					⑤整備手法の有効性 ・保安林機能の回復を図る目的から治山事業による整備が有効			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					⑥環境負荷への配慮 ・切土法面は緑化し、裸地を残さない ・使用機械は排ガス対策型とし、環境負荷を軽減する			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					⑦事業計画の熟度 ・地元都留市より強い要望あり			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
					＜妥当性評価＞ ・7項目すべて妥当であることから、妥当と判断				
					(4)事業間優先度評価 ・貢献度ランク: a 副次効果ランク: 2 優先度評価: I				
(2)整備内容と整備量					(5)総合評価			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
①整備内容 谷止工3基					・(3)及び(4)の結果から「優先的」に実施				
②整備期間 平成31年度～平成33年度									
③総事業費 150百万円(国費 68百万円(1/2) 県費 82百万円(1/2))									
④全体計画									
平成31年度 谷止工1基 60百万円									
平成32年度 谷止工1基 50百万円									
平成33年度 谷止工1基 40百万円									
⑤既整備内容・期間・事業費									
					【事業位置図等】				